

222
L
457

塾主渡清日誌

稱好塾

026534-000-0

特20-917

塾主渡清日誌

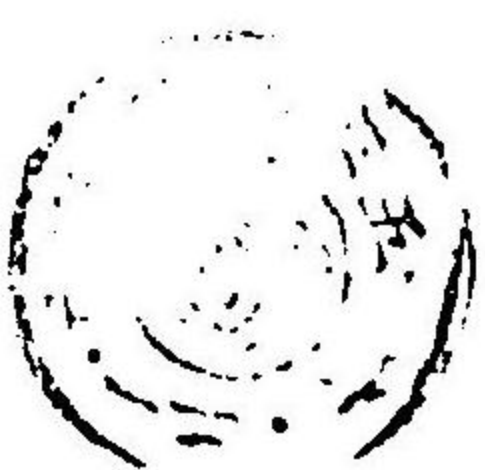
北村 和三郎 / 編

M35

ADD-0204



塾主渡清日誌



明治三十五年四月五日塾主渡清ノ程ニ上ラル、是ヨリ先キ東亞同文會々長近衛公爵ノ囑ニヨリ東
京同文書院及上海カル東亞同文書院々長タルコトヲ諾セラレタリ、今回ノ渡清ハ之ガ爲ニシテ先
東亞同文書院ニ臨ミ、更ニ長江ヲ溯リテ、内地ニ入り、交ヲ清國ノ人士ニ結ビ、親シク清國ノ
實況ヲ目睹セラレド、其尋常ニ様ノ漫遊ニアラザルコト、之ヲ知ルニ難カラズ、
同日新橋ヲ發シテ伊勢山田ニ至リ、翌六日 大廟ニ參拜シ、先考ノ墓ヲ郷里ニ掃ヒ、大津京都大
坂ヲ經テ十二日神戸ニ到リ、帆ヲ舉ゲテ彼地ニ渡リ、旅程恙ナク去ル五月二十三日歸京セラレタリ、
若シ能フベクンバ全國ノ塾友ヲ一堂ニ會シ、塾主ガ見聞セラレタルモノニツキ、新ニ教ヲ受ケン
コト、是レ塾友ノ希望スル所ニシテ、塾主ノ喜ヒテ應セラル、所ナラム、恨ムラクハ事茲ニ至ラ
サルヲ、是レ塾主渡清日誌ヲ印行シテ、以テ塾友ニ頒ツ所以ナリ、塾主亦タ曰ク、歸來聊カ以テ
塾友ニ贈ルニ足ルモノ唯ダ之レノミト、塾友諸君請フ之ヲ諒セヨ、
因ニ云フ、新橋ヨリ神戸ニ至ルノ間ハ、北村和三郎君塾主ニ隨行シテ日誌ヲ担当シ、以後ハ總
テ岩田清三郎君主トシテ之ニ任セラル、時ニ二三塾友ノ筆ヲ執リシモノアルモ、今逐一其人ニ
ヨリテ其文ヲ存セズ、悉ク岩田君ノ体ニ倣フ、併セテ之ヲ諒セヨ

四月五日 (土) 快晴

渡清ノ途次、先ツ 大廟ニ參拜セントテ、今午前六時二十分新橋ヲ發車セラル、之ヲ見送ル所ノ内外
塾友知人諸君ノ多カリシハ、停車場ノ混雜常ヨリモ甚シキニヨリテ知り得ヘシ、

原元藏、杉浦五郎ノ二君見送旁々沼津迄全車セラル、コト、ナレリ、汽笛一聲列車ノ徐々トシテ動クヤ、見送り諸君ガ前途ノ平安ヲ祈ルノ誠意、溢ル、ガ如キモノアリシヲ感シヌ、品川ニテ川瀬春太郎君、平沼ニテ木内新、鈴木重義二君、國府津ニテハ中津川一司、今井次郎、河野治平ノ三君見送ラル、ニ會シヌ、杉浦五郎、原元藏ノ二君ハ沼津ニテ下車ス、奈良謙一、杉村英夫ノ二君見送ラレ、同車ニアリシ星一君(中央記者)ハ平賀先生ノ紹介狀ヲ齎シテ來訪セラル、堀之内ニ至ルヤ、塾主ガ往年西下ノ際記憶ニ存セラレタル山櫻ノ大樹アリ、種々物色スレモ得ス、纒ニ兩三ノ小枝ニ花ノ着キタルヲ見ル、始メテ大樹ノ剪除セラレタルヲ知ルナリ、濱松ニテ末久喜十郎君ノ見送ラルアリ、名古屋ニ至ルヤ平石氏人、加藤縫五郎、山崎信樹三君ノ見送ラル、ニ會ス、先是東京ヲ出ツルニ方リ旅行ニ必用ナル膝掛ヲ携フルヲ忘レ、沼津ニ於テ原君ニ囑シテ平石君ニ致電セシム今則チ之ヲ得、特ニ文明ノ利器ノ便ニ驚ク、名古屋ヨリ關西線ニ乗換フ、山崎君ハ彌富マテ同車セラル、龜山驛ニテ乗換フ、時ニ點燈ニ及ブ、名古屋以西乘客一時減シ、殆ンド別天地ノ觀アリ、龜山ニ至テ更ニ甚シク、塾主及予ノ二人ニテ車ヲ占メ得タリ、加フルニ終列車ノコトニシアレバ、各驛昇降ノ人ヲ見ズ、唯々車聲ノ軋々タルヲ聽ク、午後九時三十七分山田驛ニ到着、和田信二郎、大井田留三郎二君ノ出迎ヲ受ケ、尾上町旅宿十文字屋五兵衛方ニ投ズ、神部署ガ豫メ斡旋セラレシモノナリ、世木伊平君來訪、大井田氏去リ、和田君同宿ス、十一時ニ至リテ始メテ晚餐ヲ了ス、塾主ノ疲勞察スルニ餘アリ、十二時ニ至リテ寢ニ就ク、

四月六日 (日) 快晴

内宮ニ參拜セントテ出發ス、和田君同行ス、神苑ヲ過ギ五十鈴ノ清流ヲ渉ル、天ヲ靡スルノ老杉、鬱々トシテ千古ノ色アリ、肅敬ノ念自ラ生ズ、神樂殿ニ少憩ノ上、大井重古君ノ鄭重ナル東道ニヨリテ參拜ス、次テ別宮ニ參拜シ、神樂殿ニ於テ人長ノ舞樂ヲ拜見ス、神酒ヲ賜ウテ退出ス、十一時歸宿、晝餐ヲ了ヘテ出發、外宮ニ參拜セラル、時間ノ許サ、ルヲ以テ唯々御正殿ヲノミ拜シ、別宮殿ヲ遙拜シテ過グ、十二時三十分發車、世木君、和田君見送ラル、松坂驛ニ至ルヤ、塾主國風アリ、松坂にて遙に山室山神社に手向けんとて

ことのはにのこしたまひし山櫻

とづくにまてもにをふこの頃

松坂驛ニ於テ藤野辰次郎氏ニ會セラル、既ニシテ瀬田ヲ過ギ膳所ニ入ル、車窓ヨリ遙ニ別保山頭老先生ノ墳ヲ拜シテ過グ、七時馬場着中村屋ニ少憩ス、出迎ノ諸君左ノ如シ
萩野三郎、松本庄太郎、望月長夫、西村善次郎、(以上塾友) 小野善伍、三田村重賜、三田村重吉、小林清次、鈴木六之助、北村熊五郎、森扶持、松下丈吉ノ二君モ偶此驛ニアリキ、直ニ大津萩君方ニ到ル、來訪者以上ノ諸君ノ外、保田雄之丞、西良吉、小澤源五郎三君(塾友)大阪朝日新聞記者中川君亦來訪、既ニシテ酒出テ閑談縷々、塾主モ稍々寛カル、蓋シ大廟參拜ヲ無事ニ了ヘ、舊知ト與ニ一堂ニ會セラレシニヨラン、此日不幸ニシテ塾友田中幸君ノ訃ニ接ス、

四月七日 (月) 雨

朝來北川晴太郎、西村善次郎、大澤吉武、武内稱、松下丈吉、高島教道、森房次郎、笠井喬、榎市次郎、田中與惣吉、小野善伍、小澤源五郎諸君來訪、

九時二十分膳所別保山ニ向フ、萩、松本、西村、小澤、田中與、西、高島等ノ諸君之ニ從フ、老先生逝去ノ後、塾主カ其墳ヲ拜セラル、ハ、實ニ此日ヲ以テ始トナス、香ヲ焚キ花ヲ供シテ老先生ノ靈ヲ慰ミ、且ツ渡清ノ別ヲ告ケラル、又先祖近親ノ墓ヲ掃ハル、歸途裏町ニ出テ、塾主ノ宅趾ナル蕉亭ニ到ル、建物ハ則是レ當時ノモノ、是ニ至リテ感自カラ生ズ、加藤直三君ノ母堂及令弟恒三郎君挨拶ニ來ル、恒三郎君三田村武治君一行ニ加ハリ、一同雨ヲ犯シテ招魂社本多神社ニ詣ル、塾主ハ親シク殉難諸士ノ墓ヲ掃フノ意切ナルモ、時間ノ許サ、ル爲メ果サレザリキ、中庄鈴木六之助君方ニ立寄り少憩、夫レヨリ滋賀縣第二中學校ニ赴ク、其庭前一株ノ「むべ」アリ、塾主カ幼時手栽セラレタル所、塾主ノ望ニヨリテ玆ニ移植セラレタルナリ、塾主親ヲ撫シテ往時ヲ談ジ、又其構内ナル舊宅趾ヲ過キテ、清徳院ニ到リ、親戚ノ墓ヲ掃ハル、去リテ快風樓ニ赴キ祖道ノ宴ニ臨マル、塾友知己ハ勿論藩ノ先輩諸士モ亦タ臨マル、其諸君左ノ如シ

武内稱、大澤吉武、小野善伍、齋藤求、松下丈吉、三田村重賜、小林清次、森房次郎、西良吉、西村善次郎、保田雄之丞、小澤源五郎、高島教道、徳大寺龜一、萩穀三郎、三田村武治、加藤恒、田中與惣吉、田卷捨三、中山輝良、鈴木六之助、北村熊五郎、

宴了リテ停車場ニ向ヒ、中村屋ニ少憩ノ後、午後三時京都ニ向ハル、見送ノ人々前記ノ外稻田諒吉、中村隼太、萩夫人ノ三君ナリトス、内林直吉君モ京都ヨリ來ル、又弘世助三郎君ニ邂逅セラル、車ヲ同ウシテ京都ニ向フモノ、萩、松下、小澤ノ三君アリ

四時京都着、泊雲塾生諸君ノ出迎フニ會ス、森祐晴君ノ家ニ到レハ、柳瀬貞造君既ニアリ、黒澤彌三郎君次テ來ル、

六時東山公園内平野屋ニ於ケル祖道ノ宴ニ臨マル、大塚要君開會ノ辭ヲ述べ、次テ塾主ノ挨拶アリ、其中ニ曰ク、

支那人ヲ教育スルハ、教育其物ノ困難ナリト云フノミナラズ、亦實ニ外交上ノ事柄ニ關スルモノナキニアラズ、難中ノ難ナル所以ナリ、然レドモ何人カ、此困難ヲ引受ケサルヲ得ズ、今ヤ大任ヲ辭セズシテ、局ニ當ルヲ諾シタル以上ハ、心密ニ決スル所アリ、微力ノ及フ限り、日清兩國ノ爲ニ盡ス所アラン云々

此日宴ニ臨マル諸君左ノ如シ

難波正、石川一、三輪桓一郎、長尾時春、伊藤半次郎、二見鏡三郎、大角成允、佐竹時之助、田邊朔郎、大塚要、曾我祐忍、福永亨吉、山田邦彦、黒澤彌三郎、野口鶴吉、森祐晴、小澤源五郎、柳瀬貞造、佐倉了八、久原躬弦、渡九藏、萩穀三郎、小林剛、岩垣篤二郎、中神直三郎、上田涼湖、

馬場正太郎、内林直吉、上田一次、河合正治、渥美勝、

四月八日 (火) 晴

夜森君宅ニテ塾生諸氏ト團樂シテ閑談、坐上大ニ負ケ、氣主義ヲ鼓吹セラル

大角成允君、全夫人、今堀彌平次君、權藤君(大坂朝日記者)長尾時春君(教育會幹事)來訪、九時半北野ニ向フ、途中黒澤君方ニ立寄ラル、之ニ從フモノ森、大角、小澤ノ三君、北野ニ至リテ宮司吉見資胤君ヲ訪ハル、松本、今堀二君モ亦タ來リ會ス、參拜後聖護院森升樓ニ至リ晝食、大角君母堂來訪、此處ヲ出テ、京都帝國大學ヲ參觀シ、舊知ノ人々ニ會セラル、理工科ノ諸室及寄宿舎ヲ參觀シ了リ、新門前町ニ土橋氏(親戚)ヲ訪ハル、夫レヨリ丸山公園左阿彌樓ナル神職ノ宴會ニ赴キ、一場ノ演說アリ、塾主ノ不在中田邊信成、中川重麗、青柳榮司、岩垣雄次郎、中野省吾、渡九藏、松井知時ノ諸君來訪セラレタリ、此日大坂ニ於テ始メテ、原君ガ祝融ノ災ニ罹リシヲ聞ク、午后七時發車、松井知時、大角成允、渡九藏、松本庄太郎、今堀彌平次、森祐晴、石川一、森君令嬢、泊雲塾生一同、大塚要、村

岡範爲馳ノ諸君、其他大學々生ノ多數停車場ニ見送ラル、八時大坂着、土佐堀ナル國本方ニ投ズ、吉村平造、永元恩藏、柏本太内、宮脇剛三、山田新一郎、神谷邦淑、榊原正彦、平田專太郎、池原鹿之助、淺岡雄之助、秋山廣太、河上謹一、岩田清三郎ノ諸君來訪セラル、

四月九日 (水) 雨

來訪者藤澤南岳、河上謹一、平賀義美、平田專太郎、上田英一、山本榮吉、前川孫六、宮脇剛三、菅沼達吉、山田新一郎、渡邊恂、中田龜二、濱崎定吉、小原元美、西村虎太郎(毎日)、榊原乾、神谷邦淑、榊原正彦、原田棟一郎、原田金之祐、三田村武治、服部一二、弘世助太郎、岩尾德太郎君母堂、中島端ノ諸君

本日ハ日本中學校卒業式ノ當日ナルヲ以テ、遙ニ電報ヲ以テ祝意ヲ表セラル、其言ニ曰ク、「前途猶遠シ互ニ努メン」、

午前中山村龍平君ヲ新聞社ニ平賀先生ヲ商品陳列所ニ訪問セラル、

午後春雨絲ノ如シ、逆旅ニアリテ訪客ニ接セラル

夜網島鮒宇ニ於ル宴會ニ臨マル、山田新一郎君發起人トシテ挨拶シ、塾主ノ答辭アリ、其大要ハ京都ニ於ケルト略ホ同シ、曰ク、支那人ヲ教育スルノ困難ナルハ明ナリ、而カモ何人カ之ヲ引受ケサルヘカラズ、既ニ此囑ヲ受ク、徒ニ難キノ故ヲ以テ辭スルハ、是レ難ヲ人ニ譲ルナリ、予ハ深思熟慮ノ末、非常ノ決心ヲ以テ之ヲ承諾スルニ至レリ、唯々聲ヲ大ニシテ行ニ粗ナルハ、予カ平生取ラサル所、唯々言ニ訥ニシテ行ニ敏ナランコトヲ期スルノミ云々

(出席者) 羽室庸之助、菅沼達吉、池原鹿之助、中田龜二、山本榮吉、濱崎定吉、富田品藏、淺岡

雄之助、平田專太郎、神谷邦淑、豊田隆吉、柏本太内、渡邊賞、内林直吉、上野理一、榊原正彦、宮脇剛三、吉村平造、村山龍平、小澤源五郎、上田英一、奥戸善之助、小塚正一郎、池田久米、小出錠雄、原田棟一郎、内藤虎次郎、川地方敬、平賀義美、山田新一郎、永元恩藏ノ諸君
 勝所以來行ヲ與ニシタル小澤源五郎君去リ中島端君來リテ我行ニ合ス、同君ハ豫テ塾主ト同行ノ約アリシナリ塾主送別會ヨリ歸寓ノ後宮脇、神谷ノ二君來訪、

四月十日 (木) 曇

午前九時半出發、傳法村ナル住友鑄鋼場ヲ視察セラル、榊原君及ヒ予從フ、山崎久太郎君案内セラル、我邦ノ製鋼實ニ此工場ヲ以テ嚆矢トナス、曾テ山崎久太郎、羽室庸之助二君ガ非常ノ熱心ト不撓ノ精神トニヨルト聞ク、今面アタリ其現狀ヲ見テ、深ク感スル所アリ、塾主モ亦大ニ満足ヲ表セラル、全事務所樓上ニ於テ酒出ヅ、一同滿引、大ニ其苦心ヲ慰スルト共ニ、前途ノ好望ヲ祝シタリキ、午後一時過歸寓、

河上先生ノ招待ニヨリ、五時過ヨリ中ノ島自由亭ノ晚餐會ニ赴カル、平賀先生亦來會、本日ハ塾主舊曆ノ御誕辰ニ當ル、氣候俄カニ寒冷ヲ覺エ、降雹ヲ見ル、

(來訪者) 左ノ諸君

河上弘一、榊原正彦、川地方敬、沖野忠雄、岩崎初太郎、池田久米、山崎久太郎、淺岡雄之助、岡村増太郎、宮脇剛三、小野徳太郎、東村道夫、成瀬名尾彌、安東不二雄、矢橋久視、上野理一、蜂屋可秀、服部一二、金澤仁作、田宮之春、堀居左五郎、鈴木馬左也、菅沼達吉、河上謹一、西村季知、久保雅友、太田達人、山千代藤太郎、奥戸善之助、

四月十一日 (金) 晴

八

(午前中來訪者) 平田專太郎、神谷邦淑、岩田清三郎、永元恩藏、眞島修三、桑原政、濱崎定吉、弘世助三郎、中田龜二、内林直吉、榊原正彦、上田英一、奥戸善之助、淺岡雄之助、宮脇剛三、山崎久太郎ノ諸君、

正午前ヨリ塾主ハ平田、上田、榊原、内林ノ諸君ト共ニ、土田方ニテ晝食ヲ了ヘ、直ニ梅田停車場ニ向ハル、中島君及予ハ十二時旅館ヲ出テ、梅田ニ向フ、

一時發車、見送ノ諸君ハ、多クハ是レ在坂中來訪ノ人、平田、宮脇、二君神戸マテ送ラル、中島君岩田清君等此行ニ加ハル、

二時三宮ステーション着、直チニ海岸ナル西村方ニ投ス、千頭先生昨日當地ニ着シテ已ニ在リ、塾主ト會セラル、

(來訪者) 細田美三郎、船井千次郎、鴨脚秀克、谷川隣、松本重爲、石渡幸之輔、秋山九八郎、志立鐵次郎、西川麻五郎、得能文、谷井保、山岡義五郎、市川由吉、岩田信、田坂佐三郎、曾我祐保ノ諸君

塾主連日訪客ニ接セラレシガ、本日ニ至リテ稍、疲勞ノ狀アリ、郵船會社支店ニアル秋山九八郎君餘旋頗ル努メラレ、便ヲ得タル少カラズ、

四月十二日 (土) 晴

イヨク、本日ヲ以テ出帆ノコトナリ、朝來ノ訪客踵ヲ接シ、塾主頗ル繁忙、來訪者ノ主ナルモノ、河上謹一、山岡次郎、河合浩藏ノ諸君其他十餘名、

神戸丸ハイヨク、十時ヲ以テ纜ヲ解キヌ、遙ニ見送リテ、征帆恙ナク、無事御歸朝アラレト心密ニ

祈リス、(北村和三郎擲筆)

(船中迄見送者) 河上、千頭兩先生、山岡次郎君、清水一郎君、谷川隣君、山岡義五郎君、西川麻

五郎君、得能文君、曾我祐保君、市川由吉君、細田美三郎君、船井千二郎君、秋山九八郎君、大坂

ヨリ内林直吉君、榊原正彦君、大津ヨリ藪田信吉君、京都ヨリ岩田信君、

北村君ハ一切ノ事務ヲ處辨シ、告別解纜ト共ニ歸東、依テ本日ヨリノ隨行者ハ、中島端石渡幸之輔兩君及予トナル、

出帆ト共ニ小雨アリ、瀬戸内海ノ景勝、快云フヘカラス、唯數日來ノ寒氣ニ加フルニ西風強クシテ、殆ント甲板ニ出ツル能ハス、多ク室内ニ閉居ス、

本船同乗者小田切万壽之助君及前神戸及大阪駐在清國領事黃以霖君時々會談セラル、

四月十三日 (日) 快晴

午前七時門司港着、阿部瀧次郎君ハ芦屋ヨリ、高野勝三君ハ小竹ヨリ直ニ來訪、午前十一時拔錨、天候益々佳、玄海灘上浪平穩、本日塾主ノ詩アリ、

次中島斗南兄韻

白髮已逢桑字年、猶存舊態醉花前、未忘宿昔四方志、今日決然先着鞭、

今朝郵船會社馬關支配人小寺敬孝君ヨリ、英杜戰爭無條件ニテ終結セシ旨ヲ聞ク、門司碇泊ノ英船、滿艦飾ヲ爲シテ、祝意ヲ表スルヲ見ル、

午後十一時長崎港着、本夜船内ニ宿ス、

四月十四日 (月) 晴

九

午前七時半、蒲池信君出迎ニトテ來船、塾主ニ從ヒ同君ト共ニ汽艇ニテ上陸、車ヲ連ネテ寶屋ニ入り休息、中西登喜次君來訪、

電話ヲ以テ、造船所ノ伊東久米藏、秀島兩君、島山重明君、郵便電信局ノ加藤泰次郎君、縣廳ノ片岡視學官、師範學校ノ原田種生君、東洋日出新聞ノ福島熊次郎君へ塾主ノ上陸ヲ報ズ、中島石渡兩君後レテ上陸セラル、

八時四十五分加藤君ヲ始メトシ、伊東秀島二君、日本郵船會社支店長東條三郎君、大坂毎日新聞支部員田代直樹君、福島、足立正枝、原田種生ノ諸君來訪、

當地在住ノ塾友モ、塾主ヲ招請スルノ意アリシモ、徒ニ先生ノ累ヲ増サンコトヲ慮リ、休憩所トシテ寶屋ヲ準備シ置カレタルナリ、

正午、塾主ヲ始メ、一行入浴ヲ終ル後、塾友等ト午餐ヲ共ニス、

零時四十五分原田君來訪、

寶屋ニ着シタルトキハ、廣間ノナカリシ爲、八疊ニ多勢押込ミテ、宛然本舎二階ノ六疊ノ觀アリ、後全宿ノ小田切領事ノ好意ニヨリ廣間ニ移ル、

午後一時半旅館ヲ出テ、島山重明君ヲ訪ハル、時ニ不在ナリシモ、出帆前本船ニ來訪セラレタリ、片岡英儀君波止場マテ見送ラレシ、塾友諸君福島、足立、友高等ノ諸君本船迄見送ラレタリ、大冶鑛山ヨリ歸朝ノ村松君船中へ來訪、午後四時拔錨、

外務書記官日置益君、大藏省官房長長森藤吉郎君、并清國留學生監督錢恂君ニ此處ニテ面會セラル、此夜日置君船室ニ來訪、九時頃五島ノ燈臺ヲ過ク、

四月十五日 (火) 午後晴

朝來雨、海上比較的平穩、

午前日置君來談午後黃以霖君ニ中島君ヲ紹介シ、相共ニ筆談セラル、

四月十六日 (水) 曇

午前八時上海埠頭ニ着ス、東亞同文書院事務員中村兼善及山田君、駐屯隊副官高塚彌、滬報社員井手三郎君等出迎ハル、直ニ同文書院ニ到ル、菊池君扁桃腺炎ニ嬰リ、昨夜來就褥セラル、ヲ以テ、病床ニテ面會セラレ、院內ニ滯留セラル、トナル、

東亞同文會へ着滬ノ報ト共ニ、豫テ約束アリシ小宮山桂介君へ和歌ヲ贈ラル、

連峯花

こよみなさき里にも春は知られけり

何處の峯も花の白雲

午後學生一同ニ新任ノ御挨拶アリ、其一節ニ曰ク、今回此浦柳ノ身ヲ以テ、兼テ臂ノ重カリシ予ガ進ミテ任ニ膺ルノ決心ヲナシ、ハ、抑モ偶然ニアラズ、云々、職員ト共ニ書院ノ全体ヲ巡視セラル夜校内英語會ニ臨マル、

四月十七日 (木) 細雨

午前八時半中島君及事務員中村君ヲ隨へ經元善君ヲ訪ハル、君ハ同文書院ノ家主ニシテ、常ニ好意ヲ寄セラル、ノ人ナリ、

午前九時半雨ヲ冒シテ、同文滬報館、商船會社支店、三井物産會社支店、正金銀行支店、領事館、郵船會社支店、大東汽船會社、郵便局、順泰洋行(石炭商吉田順藏君)ヲ展訪セラル、全日三時歸院、中村

君石渡君及予隨行ス、
歸院後、本院教師沈文藻君來談、君ハ故補陰先生十五年前ノ舊友ナリト云フ、

四月十八日 (金) 細雨

午前、同文書院授業ヲ視察セラル、
午後、守備軍艦(赤城)及駐屯隊ヲ訪問サレ、途次文廷式君ヲ訪ハレ、筆談多時、文廷式君問フテ曰ク、東人遂ニ西人ニ及ハサルカ、塾主答ヘテ曰ク、願フニ力行如何ニ因ルヘシト、既ニシテ辭シ去ル午後七時ヨリ正金銀行ノ招待ニヨリ、振貝子(慶親王王子)招待會ニ臨席セラル、(中村君隨行)
本日井手友喜君(滬報井手三郎君令弟)及書院教師鐸麟、銳申、二君來訪、

四月十九日 (土) 晴

午前八時經元善君來訪長談アリ、次テ商船會社ノ堀啓二郎君來訪、十時半ヨリ事務員山田純三郎君及一行ヲ隨ヘ、龍華寺ニ詣ラル、寺ハ書院ノ西南一里半ニアリ、一條ノ大道ヲ通シ、路傍桃樹多シ、唯ダ途次ノ不潔ナルト乞食ノ蟬集トニ苦ム、寺ニ七層塔アリ、曾テ故補陰先生ガ名ヲ題セラレタル所ナリ、塾主塔ニ上リテ故人追懷ノ情ヲ慰スルニ意アリシモ、入ルコトヲ許サレズシテ空ク歸ラル、午後井手三郎、白岩龍平二君來訪、菊池君ノ病殆ント治癒ス、

四月二十日 (日) 快晴 七十三度

朝來茂原周輔、中川外雄、田中常徳、林民雄、佐立七次郎、毛利一兵衛(赤城艦長)、等ノ諸君來訪、午後四時ヨリ居留地アストルハウスニ田中常徳君ヲ訪ハル、不在、公園ヲ散策シテ、午後六時ヨリ四馬

路杏花樓ナル井手君ノ饗宴ニ赴カル、書院職員及一行陪席ス、
本日堀井胤吉翁作短刀一口ヲ、菊池君ヲ介シテ經元善君ニ贈ラル、

四月二十一日 (月) 雨 六十七度

午前書院授業ヲ視察セラル、
午後六時半塾主ヲ始メ一行商船會社汽船大和丸ニ搭シ、漢口ニ向フ、阜頭ニ到ルノ途次、言語不通、道路不案内ノタメ、車公ヲ指揮スル能ハズ、道ヲ失シテ一時途方ニ暮レタリシハ、時ニトリテ一笑話ナリシ、
二十二日午前二時拔錨、本日書院高瀬梅吉、中村兼善兩君ハ波止場迄、山田君及中川外雄君、井手三郎君、手島君、島田君、(滬報)ハ本船ヘ見送ラル、出發ニ先チ、大冶鑛山西澤公雄君ニ宛テ、漢口ニ向フ旨打電ス、

四月二十二日 (火) 雨 七十五度

黃浦江拔錨後、長江ヲ遡リ、通洲、江陰、泰興、儀徵、鎮江等ノ開港場及乘船場ヲ經、此日時々雷鳴アリ、

四月二十三日 (水) 曇天 七十二度

午前四時、南京ヲ發ス、連日洋々タル濁水ト時ニ岡嶺ノ起伏ヲ見ルノ外ハ、眸ニ入ルモノ唯タ際涯ナキ千里ノ沃土アルノミ、轉々徒然ニ苦シム、午前十一時蕪湖ニ着ス、無數ノ乞食、或ハ小舟ニ乘リ、或ハ鹽ニ乘リ、四方ヨリ簇リ來リテ、長竿ノ頭ニ袋ヲ着ケタルモノヲ差出シテ錢ヲ乞フ、其狀亦タ奇ナリ、午後七時大通ニ達ス、

四月二十四日 (木) 細雨 六十度

十四

午後一時安慶ヲ發シ、前十時九江、午後三時武穴ヲ經、此日九江ニテ、船中ノ日本人一同デツキニ集リ、末永商船會社員自ラ撮影ス、八時道士洑ヲ左ニ見テ石灰窑ヲ過ク、只見ル岸上數個ノ焚火、炎々天ヲ焦ガスヲ、忽ニシテ爆竹聲裡遙ニ萬歲ノ聲ヲ聞ク、是レ西澤公雄君加藤直三君ガ、塾主歡迎ノ合圖ト覺エタリ、船進ム一里餘、七時黃石港ヲ過ク、此時西澤公雄、田中慶之助、栗林孝一郎君等飛上リ來リテ塾主ヲ迎へ、共ニ漢口ヲ向フ、

四月廿五日 (金) 雨

午前六時半漢口着、領事館書記生古谷榮一君來リ迎へ、且ツ諸事ヲ打合ス、張制臺會見ノ爲メ、先ツ胤吉翁作短刀一口、及び近衛公長岡子ノ紹介狀ヲ領事館通譯片山敏彦君ニ托ス、且ツ至急會見ノ必要アルヲ以テ、西澤君ヲ經テ旨ヲ片山君ニ通ズ、片山君快諾シ、直ニ雨ヲ衝イテ江ヲ渡リ、執事汪鳳瀛君ニ面シ、終ニ明日會見ノ事ヲ取計ハレタリ、此ノ如キハ實ニ異例ニシテ、全ク西澤、片山兩君ノ盡力ニヨル、午後三時領事山崎桂君來ル、此日塾主ハ上陸セラレズ、一行皆共ニ船中ニ宿ス、塾主江上ノ作アリ、

長江一帶、風景一無可見、唯存舊蹟之處、一々惹我感、即有此作

會聞王氣伏金陵、今日有誰期勃興、鐵鎖長留迂拙計、桂舟徒博雅遊稱、山川相縵千秋古、賦畝皆開百穀登、唯使當年臥龍在、不將名城付蕃僧、

四月廿六日 (土) 雨

午前八時塾主ヲ始メ一行領事館ニ到ル、隨フ者西澤、石渡、岩崎、田慶、諸君及ヒ予ナリ、九時安田善二郎君一行ノ汽船ニ便乘シテ、武昌ニ到ル塾主ハ長森藤吉郎君、片山敏彦君等ト馬車ニ同乘、總督府衙門ニ到ラル、田慶君之レニ從フ少憩ノ後、十一時半、長森君ト共ニ張總督ニ會見、片山君通譯ノ勞ヲ取ラル、聞クガ如クンハ、總督ハ頗ル塾主ノ來武ヲ喜ビタルガ如ク、其着セラレタル日本服裝ヲ評シテ、清高古雅ト曰ヒシト、之ヨリ先キ西澤君ハ他ノ一行ト與ニ陸軍大尉大原武慶君ノ宅ニ至リ、塾主ヲ待ツコト少時、既ニシテ塾主會見ヲ終リ、長森君ト分袖シ、片山、田慶兩君ト共ニ至ル、大尉午餐ヲ饗セラル、中野太郎君亦夕座ニアリ、午後一時大原君ノ宅ヲ出ヅ、大尉ノ請ヒニ應シテ其管理セラル、學校將辨學堂ニ到ラレ、講堂ニ於テ生徒ニ向ヒ、一場ノ演說ヲ試ミラレタリ、學堂ハ我士官學校ノ如キモノ、生徒百餘名アリト云フ、通譯ハ木野村政徳君其勞ヲ取ラレタリ、三時ニ至リテ一同歸方中佐ノ宅ニ到リ、安田君一行ノ漢口ニ歸ルヲ待合ス、

五時半船ニテ武昌ヲ發ス、風浪甚高ク、塾主カ汽船ヨリ端舟ニテ大利丸ニ轉乘セラル、際其危險言フヘカラズ、六時着、井原鶴太郎、片山敏彦、緒方二三、二橋、栗林孝太郎ノ諸君來訪、十時大利丸ニ乘シテ漢口ヲ發ス、從フ者西澤、石渡、田慶、張繼祖諸君及ヒ予ナリ、

四月廿七日 (日) 雨

午前四時黃石港着、加藤直三君、船ヲ艤シテ來リ迎へ大治ニ到ル、大治礦務局ハ特ニ護勇二人ヲ發シ塾主ノ御着港ヲ出迎ハシメタリ、午後八時大治電報主任張繼祖君晚餐ノ招待ヲ受ク、張ハ西澤君ノ教育ノ下ニアルモノニシテ、當時漢陽ニ在リ、今回塾主ノ來ラル、ニ際シ、特ニ隨行シテ大治ニ歸リ、塾主ヲ招キシナリト云フ、

十五

宗方小太郎、岡幸七郎二君來訪

四月廿八日 (月) 雨

午后二時雨ヲ冒シ、大車ニ乗シテ鉄山總辦解茂承ヲ訪ハル、西澤、田中、石渡、加藤ノ諸君及ヒ予之ニ從ヒ、宗方君、岡君モ同行セラレタリ、總辦トノ會見ニ當リテハ、宗方君通譯ノ勞ヲ取ラレタリシガ、解君ハ頗ブル筆談ヲ好ムヲ以テ、重ナル件々ハ互ニ筆談ヲ以テ談合セラレタリ、解總辦ハ塾主ノ來訪ヲ悦ビ、大ニ饗應ノ準備ヲ爲セシモ、塾主ハ多忙ニシテ時ノ足ラザルガ爲メ、厚ク其芳志ヲ謝シテ饗應ヲ辭シ、暢談約一時間ニシテ歸途ニ就カル、途次多得灣停車場ヨリ迂廻シ、日本製鉄所ニ於テ購買セル獅子山ヲ一見セラレ午後七時一同ト與ニ歸寮セラレタリ、歸來製鉄所員ノ調理セル日本料理ノ饗ヲ受ケラル、宗方、岡兩君亦タ與ニセラル、宴酣ナル頃、清國大冶礦務局委員呂德録、呂循勉等兄弟三人來訪ス、

四月廿九日 (火) 快晴 六十七度

午前九時故田宮春策君ノ墓ヲ掃ハル、墓ハ石灰窰ヲ去ルコト十數丁下流ノ岡上ニアリ、墓前ニ供セラレタル歌次ノ如シ、

唐土の露と消へても魂は我日の本を護れ大丈夫

午后一時駐在員ノ催ニカ、ル、舟遊ニ會セラル、塾主作アリ、

四月廿九日與同人漁于長江

新舊相携慰旅愁、長江千里放漁舟、細鱗巨口一樽酒、同趣當年蘇子遊、

既ニシテ大冶電信局長張繼祖君亦來リ會ス、此日恰モ皇孫殿下ノ御誕辰ニ當ルヲ以テ一同杯ヲ舉ケ

テ遙ニ之ヲ祝ス、歸途狗儉山ニ於テ蕨ヲ採ル、後之ヲ大亭丸船長ニ贈ラレタリ、

贈張繼祖

同人介我意中人、杯酒獻酬殊覺親、一見已懷舊知感、異鄉春亦故鄉春、

午後四時歸館、近家常瑞芝君(西澤君支那語教師)來訪、宗方、岡、張諸君ハ告別ノ爲メ來訪、塾主ハ隣家呂德録君ヲ訪ハル、

午後九時石灰窰(製鉄所出張所)ヨリ端舟ニテ出發、流ヲ遡ルコト一里餘、黃石港ニ達シ、大坂商船會社乗客待合所ニテ約六時間待合ス、見送ル者西澤、田慶、加藤、橋本ノ諸君等ナリ、

四月三十日 (水) 曇 後ニ雨、六十八度

午前三時半大亭丸乘船、製鉄所諸君ト分袖シ、直ニ出帆ス、

五月一日 (木) 雨 六十八度

正午南京ニ着ス、是ヨリ先キ、塾主連日ノ應接ニ頻繁ヲ極メ、旅行ノ險難ヲ犯サレシ爲メ聊カ御不快ヲ感セラレ、加フルニ本日ハ風雨甚シク、通譯者其人ヲ欠ク等、種々ノ事情ニ因リ、南京上陸ヲ見合サル、上海同文書院ニ宛テ其旨打電ス、

五月二日 (金) 快晴 七十度

午前十一時半上海着、菊池、山田二君本船迄出迎ハル、波止場ニテ一行ノ中島、石渡、岩崎諸君ニ別レ、(君等ハ旅館豐陽館ニ至ル)午後一時半、同文書院ニ歸着ス、稻村新六(陸軍大尉)君來訪、次テ四月三十日來着セラレタル根津一君成田與作君及校醫等ニ面會セラル、

塾主今朝來御氣分勝レサリシモ、夕刻ヨリ稍快方ニ向ハル、本日萩君原君其ノ他本國ヨリノ來信アリ、

五月三日 (土) 快晴

根津君ハ來五日上海ヲ發シテ漢口及南京ニ向ハルルヲ以テ、本日書院職員ノ發企ニテ新舊院長送迎會ヲ開カル、午後五時ヨリ書院內舊教頭室ニ於テ開會、列席者井手三郎、成田安暉(西藏ヨリ歸リシ人)等ノ諸君ナリ、

本日來訪者井手三郎、石渡、岩崎ノ諸君、漢口領事館片山敏彦君へ端書ニ左ノ詩ヲ書シテ贈ラル、

萬里辭家訪老龐、一朝何幸接溫容、歸來半夜船窓夢、思到南陽舊臥龍、

本日ハ追々御快氣ノ様ニ見受ク、根津君南京ニ行カル、ヲ以テ、劉總督宛ノ近衛公長岡子添書及胤吉翁作日本刀一口ヲ托サル、

五月四日 (日) 七十度時々降雨

午後一時ヨリ東亞同文書院學友會第一回ヲ書院ニ開キ、新舊院長送迎會ヲ催ス、臨席ノ上御挨拶アリタリ、根津、菊池兩君モ亦一場ノ挨拶アリ、

(來訪者) 立花政樹、狩野直記、長森藤吉郎、江副廉藏、井原眞澄、神崎正助、堀扶桑、横田三郎、宮崎駿兒諸君、

五月五日 (月) 晴

朝、院長事務ノ引繼アリ、小林健吉君來訪、在漢口宗方小太郎君ニ左ノ詩ヲ贈ラル、

次宗方賢臺送別瑤韻

同醉他鄉水石寰、更乘餘勇探名山、料知再會期非遠、自是長江幾往還、

湯原元一、村松山壽、廖宇春(東亞善鄰學館主)、張書蘭、賴豐燕諸君來訪、

午後一時半書院紀念寫真會アリ(新舊院長送迎ノ爲)、根津君ノ一行ハ午後八時ヲ以テ出發セラレタリ、

五月六日 (火) 快晴

午前九時ヨリ中村君及予隨行シテ、先ツ領事館ニ至リシモ、小田切總領事未タ歸滬セス、アストル、ハウスナル長森君ヲ訪ヒシモ不在、居留地ノ書舖ニ立寄り、支那ニ關スル英書ヲ購ハレ、書院ニ寄附セラル、

同文書院即事

高昌廟畔柳青青、恰是清和雨始晴、書院日長無一事、案頭默坐聽流鶯、

午後七時ヨリ新舊學生寄宿舎ヲ視ラル、新學生中、圖ラス故垂井辰次郎君實弟眞藤駿士君アリ、福岡縣撰出學生ナリ、

五月七日 (水) 晴 七十五度午後四時八十度

昨夜ハ冷氣ヲ感シタル程ナリシニ、朝來甚々炎蒸、氣溫劇變ノ爲カ、孰レモ不快ヲ感シタリ、塾主終日外出セラレス、

次篠原君韻

塾主

白頭猶未伴閑鷗、直溯長江千里流、王霸興亡懷建業、英雄勝敗歎荊洲、一聲杜宇月昏夕、四境平原麥秀秋、禹域今朝窺半面、新添內外幾多愁、

呈天台先生

菊池君

滬上春光夢中老、龍華寺畔雨如糸、偶有恩師自東到、異鄉談舊又論詩、

次菊池學士瀧

塾主

跋涉雲山訪舊知、快談忘我髮邊絲、寸心唯是言難盡、且舉餘情托酒詩、

五月八日 (木) 晴 七十度

朝菊池教頭ト新校舍増築地新學生ノ授業等ヲ視ラル、知縣任憲吉君來訪、君ハ四川ノ人、年齢四十七、日本ニ渡リ政治學ヲ修ムルノ志アリ、石渡幸之輔君ハ來ル十日發ノ神戸丸ニテ歸航ノ筈ニテ、告別ノ爲メ來ラル、

戲簡根津片山二兄

甲越相逢淡水涯、料知酒戰正酣時、閑人亦得醉中趣、欲寄蕪詩爲解頤、

庭新竹(小宮山素園課題)

見るがうちにはや入相と思ふまで生茂りたる窓の新竹

五月九日 (金) 曇 六十五度

井手三郎、愈明震(南京陸師學堂總辦)兩君來訪、

午後書院道場ヲ視ラレ、高昌廟(書院ノ近所へ一町半)ニ詣ラル、

五月十日 (土) 晴 六十八度、夕降雨

午後四時ヨリ菊池君同行ニテ上海江左書林ニ行カレ、支那書籍ヲ購ウテ書院ニ寄附セラル、後六時ヨ

リ四馬路、一品香(蕃菜館西洋料理屋ト云フコト)ニテ書院職員一同及井手三郎渡邊正雄(大東汽船會社々員)牛島吉郎、篠崎都香佐(前囑托醫)諸君ヲ招キ、晚餐ヲ饗セラル、

五月十一日 (日) 快晴 六十五度

中川外雄、中山五郎、安生彰平、渡邊正雄ノ諸君來訪、夕刻近郊ニ散策ヲ試ミラル

五月十二日 (月) 快晴 六十六七度

朝菊池君ト經元善君ヲ訪ハル、君曩ニ塾主ヨリ賜ラレタル日本刀ノ銘ヲ作り、滿悅ノ意ヲ表ス、午後一時ヨリ徐家滙ナル南洋公學ヲ參觀セラル菊池君及予隨行ス、公學ハ書院ノ西方約二里ニアリ、宏壯ノ建築ニシテ、周圍開豁、風景ノ美ナルノミナラス、市街ニ遠カリ、恰モ東京ニ於ケル青山附近ニ似テ、校舍ノ設置ニ好適ノ地タリ、聞ク此校舍ハ五年前兩江總督及盛宣懷君ノ設立スル所ニシテ、建設費十八万金ヲ要セシト云フ、目下歐米人及清國ノ教師ニテ生徒三百名ヲ教育ス、課程ハ我學習院ノ如ク、小學中學専門ノ三科ニ分ル、専門ハ鐵路科之レナリ、午後四時歸院、晚食後散步、附近ノ植木屋ニ立寄り、盆栽數種ヲ購ヒ、書院ニ寄附セラル、本日篠崎都香佐君ヨリ招待アリシモ、疲勞ノ爲メ斷ハラル、

五月十三日 (火) 曇天 六十五度夕降雨

午後小田切萬壽之助君來訪、

五月十四日 (水) 曇天

午後上海道臺袁樹勛君ヲ訪ハル、事務員會根原君隨行ス、洋務局ニテ會見セラル、日置益君來訪、本日西田舍監ヲシテ左ノ詩ヲ學生一同ニ示サシメラレタリ、

次清國留學生吳啓孫韻之詩錄以示諸子

誰道孔門眞法空、東西長短孰其中、至誠宜持蘇卿節、推理堪欽邵子風、萬卷精神揆終一、千年治亂跡皆同、期君利器研成後、盤錯試來心更雄、

五月十五日 (木) 晴 七十度

午後一時ヨリ鐵路總司ニ赴カレ、盛宣懷君ニ會見、胤吉翁作日本刀ヲ贈ラル、曾根原君隨行ス、途次相馬永胤君ヲ正金銀行支店ニ訪ハレ、且領事館ニ立寄り、豫テ小田切萬壽之助君ヨリ招待アリシ、本日ノ晚餐會ヲ斷ハララル、

本日篠原邦威(滬報)濱村袋、山本卯兵衛、近藤龍三郎、中川外雄、諸君來訪、

五月十六日 (金) 昨夜來降雨前八時頃ヨリ霽

朝經元善、鍛田信吉、岩崎卯太郎諸君來訪、午後守備隊副官高塚彌君來訪、本日漢口片山敏彦君ヨリノ來信中ニ、左ノ詩アリ、

有友由大治而歸、談及 先生之遊、頗極豪快、即有此作、

傾斗諸豪連日筵、高歌動地酒如泉、天風一夜吹餘灑、醉倒飛雲洞裏仙、之ニ對シ、即時ニ其韻ヲ用ヒテ寄セラレタル詩ニ曰ク、

餘情未盡忽離筵、黃鶴樓頭風雨天、今朝得報更相問、何日移封向酒泉、

午後書院學生一同ニ向ヒ、告別ヲ兼テ訓誡セラル、所アリ、要ハ國費ヲ以テ外國ニ留學スルモノ、實

任ノ大ナルハ勿論、其一舉一動ハ、延テ國體ニモ關スルヲ以テ、幾微モ慎重ヲ守ルヘク、且各自責任ヲ重シ、交情ヲ親密ニシ、以テ團結ヲ鞏固ナラシムヘシトイフニアリ、

午後五時教授根岸佑君ノ病氣及病蔭中ノ學生ヲ見舞ハル、午後六時ヨリ書院職員ノ催ニカ、ル送別晚餐會ニ臨マル、

午後八時出發、菊池君同乘、滬報及領事館ヲ訪ハレ、直ニ郵船會社碼頭ナル博愛丸ニ乘船セラル、見送者書院職員一同學生中ノ室長二十八名及小田切、日置、林(郵船)、堀(商船)、井手、篠原、牛島、篠崎、中山(三井)、立花、水川(郵船)、岩崎、近藤ノ諸君等ナリ、上田春治君ハ本船ニアリ、頗ル幹旋セラル、同君ノ盡力ニテ喫煙室ヲ借り受ケ、見送リノ諸君ト別盃ヲ酌マル、光景頗ル壯、午後十二時ニ至リテ寢ニ就ク、

五月十七日 (土) 快晴

午前七時拔錨、中川外雄、鍛田信吉、岩崎卯太郎諸君見送ラル、相馬永胤君同乘歸朝、午後一時頃水面ノ黃色稍ニ碧色ノ變ス、上海ヨリ約百海里、海上平穩、

五月十八日 (日) 曇

午後二時五島ヲ左舷ニ見ル、本船々員村越駒五郎君、前田庸一君等交々來談、前田君ハ會テ塾ニ在リシト聞ク、午後八時女神檢疫所ニテ檢疫ヲ受ケ、八時三十分長崎着港、直ニ上陸、油屋町寶家ニ投ス、

五月十九日 (月) 大雨

連日ノ御疲勞ニテ、珍ラシクモ午前八時起床、蒲池、秀島、加藤、伊東、諸君來訪、正午迄懇談アリ、

長崎新報記者上野秀次郎君來訪、前十一時四十分實家ヲ出テ、雨中前記熟友諸君ノ見送ヲ受ケ、長崎停車場ニ至リ、直ニ發車、午後五時五十分佐賀驛ニテ垣内正輔君ニ會見セラレ、十分許ニテ發車、二日市驛ニ至リ青木廣太郎君ノ出迎ヲ受ケ、後七時三十分博多着、直ニ福岡市榮屋ニ投ス、
宮崎神社禰宜田村重次君來訪、青木君ハ舊ニ依リ快談、午前一時ヲ過キ歸宅セララル、

五月二十日 (火) 快晴

朝來芦津耕次郎(宮崎宮司ノ息)白河次郎(九州日報)、高橋剛吉、吉井淨、赤谷達郎、吉井榮諸君來訪、午後一時半同家ヲ出テ、二時半博多驛發、前記諸君見送ラル、猶ホ吉井淨君ハ香椎驛迄、青木君ハ一驛又一驛ト、終ニ門司驛迄來ラレタリ、門司驛ニハ高野勝三君出迎ハル、聞ク昨夜ハ意外ノ暴風雨ニテ長崎港ニテ別レタル博愛丸ハ、門司ニ向フノ途、之カ爲メ止ムヲ得ズ長崎ニ引歸シ、更ニ今朝長崎ヲ發シテ門司港ニ至リ、關門鐵道聯絡船大瀬戸丸ニテ馬關ニ達セントスル頃、門司港ヲ發シテ神戸ニ向フニ會シ、意外ノ天祐ヲ感シタリ、
午後六時馬關山陽鐵道旅館川卯ニ投宿、青木、高野兩君亦タ門司ヨリ從ヒ來ル、晚食ヲ共ニシ、兩君前後シテ辭シ去ル、當地開業醫青木坦平君(内塾友青木東吾君ノ嚴父)來訪、

五月二十一日 (水) 晴

午前八時山陽鐵道ニ依リ東向ス、高野勝三、青木坦平兩君見送ラル、朝來天氣快晴、防長ノ風景甚佳ナリ西條驛ニテ廣島縣視學官伊村則久君ニ會ス、尾ノ道驛ニテ杉山新十郎君(市長)來驛、同乘シテ福山ニ至リテ辭シ去ラル、岡山驛ニテ小倉久君ノ大坂ニ行クニ會シ同乘、
午後九時神戸驛着、秋山、船井、細田ノ諸君來驛、秋山君ハ長崎ニテ博愛丸ニ托セシ荷物ヲ持來ラル、

聞ク榊元宇平君ハ本日午前十時當港拔錨ノ常陸丸ニテ渡歐セント、午後十時五分、大坂着、同地及京都ノ熟友數十名出迎ハル、直ニ筑前橋南詰國本ニ投宿セララル、同夜ハ十二時過キ迄熟友諸君ト懇談アリ、蘆津磯夫君來訪、明日會合ヲ約セララル、

五月二十二日 (木) 晴

朝來河上平賀兩先生ヲ始メ、新聞記者熟友其他三田村重賜、菅沼達三、江川和吉、池田久米、小出錠雄、前川孫六、永元作次等ノ諸君來訪、晝東京ナル千頭先生ヨリ差掛リタル用務アルヲ以テ、速ニ歸京ヲ望ムトノ電報アリ、依テ本日出發セララル、トトナル、京都丹波丹後等、豫テ御立寄ノ豫定ナリシモ、凡テ中止セララル、午後一時蘆津君ヲ大三輪君ノ宅ニ訪ハル、
午後四時四十五分發ニテ大坂ヲ出ツ、熟友諸君見送ラル、榊原正彦君ハ同乘大津迄見送ラル、京都驛ニテ京都熟友諸君及森君令嬢泊雲熟生十數名來驛、同驛ヨリ森祐晴君、松本莊太郎君同乘大津ニ向フ、午後七時馬場着、松下丈吉、萩澄三郎、小野善伍、田中與惣吉、西村善次郎、望月長夫ノ諸君等出迎ハル、直ニ萩君宅ニ赴カル、同夜大角成允君ハ京都ヨリ來リ、松本、榊原兩君及予ト共ニ同家ニ一泊ス、森祐晴君ハ膳所ニ至ル、岩田信君モ亦タ京都ヨリ來ル、

五月二十三日 (金) 曇

午前八時五分馬場發、松下丈吉、萩令閨、萩爲造、相原(中學校教員)ノ諸君其他熟友諸君見送ラル、同乘ノ田中敬一君(台灣國語學校長)八幡驛邊ヨリ來談アリ、彦根驛ニテ市瀬禎太郎君來會、奥戶善之助君ハ同驛ニテ下車ス、名古屋驛ニテ平石氏人、長尾泰昌兩君來驛、沼津驛ニテ杉村英夫(中學校教員)君來驛、平沼驛ニテ上田成章君來驛、

汽車平沼驛ニ至ルヤ、同乗ノ外人ハ悉ク下車シ、邦人一名ノ同乗アルノミ、即チ豫テ上海ニテ購求アリタル支那服ニ着換ヘラル、新橋ニ達シタルハ午後十時三十五分ナリ、熟友其他百餘名出迎ハレ、一樣ニ其服裝ノ意外ニ驚キタル狀アリ、午後十一時過無滯御歸宅、數名ノ内外熟友ト暫時談話ヲ交ヘラレタリ、座上渡清第一ノ感トシテ語ラル、所ヲ聞クニ、曰ク、

清國ニ於ケル我が在留民ノ家屋ヲ、速ニ日本風ニ改築シ、我カ内地同様ノ起居生活ヲ爲サシメザルヘカラズ、歐米人ノ着々事業ヲ成功スルハ、全ク故國ニアルト異ナラザル生活ヲ有スレバナリ、現今我が在留民ノ狀態タル、支那化スルニアラズバ、歐洲化スルヨリ他ニ途ナク、毫モ生來慣習ノ娛樂ヲ享有セザルヨリ、常ニ一時的旅人ノ感ヲナシテ、永遠ノ事業ヲ營ムノ念ニ乏シク、動モスレバ歸志ニ制セラル、ヲ致ス、男子ト雖モ免レズ、況ンヤ婦人ヲヤ、聞ク西洋家屋モ、亦清國人ノ建築シテ貸與スルナリト、而シテ日本人ノ日本家屋ヲ所望スルナキハ、何等カノ遠慮ニ出シモノカ、從來渡清者ノ之ニ關スル意見ヲ聞カザルモ不思議ナリト、

猶ホ鍛工胤吉翁ノ注文ナリトテ、大冶鐵山ノ鋼鐵、實村翁ノ注文ナリトテ、蓮ノ實ヲ持チ歸ラレタリ、或人曰ク、何ソ注文ノ興味アルヤト、蓋シ渡清日誌ノ餘韻タルニ背カズ、

明治三十五年六月十八日印刷
 明治三十五年六月廿二日發行

(非賣品)

編纂 東京市小石川區久堅町廿一番地
 稱好塾

全所

編纂人 北村和三郎

印刷人 熊田宜遜

印刷所 東京市神田區錦町三丁目廿五番地
 熊田活版所
 (電話本局三四六番)

東京市小石川區久堅町廿一番地

發行所

稱好塾

